加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況(内規第11条 活動報告)

1 国	際学術団体活動状況	兄(内規第 11 条 活動報告)
団	和	国際光学委員会
体	英	International Commission for Optics(略称 ICO)
名	団体 HP(URL)	http://www.e-ico.org
	EF III (CILL)	(日本学術会議が加盟していることの記載(有)・ 無)
	:術団体における最近	ICO は、これまで ISC (国際学術会議) の Associate Member
のトピ	゚ックについて	であったが、2022 年に ISC の Category 1 Member(Regular
	の進歩、当該団体の推	Member) に昇格した。これにより、光の科学技術分野の国際
	の変化、国際機関・政	学術連合としての地位を確立した。今後も、IUPAP をはじめ
府・社	会との関わり方等)	他の国際学術連合と連携して、光学やフォトニクスの立場か
		ら世界の学術の発展に大きな貢献することを目指す。
		さて、2015 年に国連 UNESCO が国際光年を制定したが、
		ICO も国際光年の活動に積極的に貢献し、中核的役割を果た
		した。これらの活動により光の科学と技術の理解と啓もうの
		重要性の認識がますます広がった。国連が主宰してきた国際
		年の中で、国際光年は最も成功した国際年の一つとして位置
		づけられている。
		国際光年の成功を受け、UNESCO は毎年 5 月 16 日(メイ
		マンが初めてレーザー発振に成功したとされる日)を国際光
		デーとして制定し、これにより ICO は 2018 年より継続的に 活動を進めている。
		店動を進めている。 また、ICO は、世界の開発途上地域の学術および教育の進
		展に資するため、光学・フォトニクスの立場からアフリカ地域
		の支援に力を入れた活動を行い、2023年と2024年には南ア
		フリカで同分野の国際学術会議を主催するなど、学術の立場
		から社会課題の解決に寄与する活動を行ってきている。
当該国]際学術団体の対応す	光の科学と技術の重要性は、太古の昔から人類の発展の歴史
	の学術の進歩に貢献	に密接にかかわっているが、1960年にレーザーが発明されて
した事	例	以降、光の有用性は飛躍的に増大した。光やレーザー科学に関
		係する研究に対して4~5年に一度のペースでノーベル賞が授
		与されていることからも分かるように、当該分野の学術の進
		歩への貢献は計り知れない。以下に、関連する主なノーベル賞
		の受賞者、受賞年、授賞理由を示す。
		· Charles H. Townes, Nikolay Basov, Aleksandr
		Prokhorov(1964 年): メーザー・レーザー原理の発明。
		・ Dennis Gabor(1971 年): ホログラフィーの発明。
		・ Nicolaas Bloembergen, Arthur Schawlow (1981年): レ
		ーザ分光学の発展への貢献。
		• Steven Chu, Claude Cohen-Tannoudji, William D.
		Phillips (1997年): レーザー冷却およびトラップによる
		原子操作の開発。
		・ Ahmed Zewail(1999 年, 化学賞): フェムト秒分光法に
		よる化学反応の超高速観測。
		・ Zhores I. Alferov, Herbert Kroemer (2000年): ヘテロ

構造に基づく高速・高効率オプトエレクトロニクスデバイスの開発。

- Roy J. Glauber (2005 年): 量子光学の基礎理論の確立。
- ・ Theodor W. Hänsch, John L. Hall(2005 年): レーザー 周波数コム技術の発明。
- ・ Serge Haroche, David J. Wineland (2012 年): 光子やイオン等単一量子系の操作と測定における先駆的研究。
- ・ Isamu Akasaki, Hiroshi Amano, Shuji Nakamura (2014年): 高輝度青色 LED の発明と実用化。
- ・ Arthur Ashkin (2018 年): 光ピンセット (optical tweezers) 技術の発明。
- Alain Aspect, John F. Clauser, Anton Zeilinger (2022年): 量子もつれ状態を用いた光子の検証実験。

政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について

光の科学と技術の重要性は、上述の数多のノーベル賞が示すとおりであるが、2014年の赤崎、天野、中村各博士ノーベル賞受賞及び2015年の梶田博士の受賞により日本においてもさらに広く認識されている。2018年および2023年のノーベル賞物理学賞は、レーザー技術の革新的な研究(チャープパルス増幅およびアト秒レーザー)に対して、それぞれ米欧の研究者に授与され、今後さらに発展が期待される分野である。

マスタープラン 2014 などがベースになり、文部科学省の平成 27 年度戦略目標の一つとして「新たな光機能や光物性の発現・利活用による次世代フォトニクスの開拓」が、平成 28 年度同目標の一つに「量子状態の高度制御による新たな物性・情報科学フロンティアの開拓」が各々採択され、JST における CREST 等で研究開発が実施された。これらの分野は現在欧米でも活発に研究開発が推進されており、今後ますます重要となる。

また、LED 光発電の普及の策は各国でとられており、こちらもさらに重要なテーマであり続ける。レーザー核融合も近年重要な学術的進展があり、エネルギー政策の観点から重要なテーマとなると考えられる。

日本人役員によるイニシア ティブ事項や日本からの参 加によって進展や成果があ ったものについて 荒川 ICO 分科会委員長が、 $2014\sim2017$ の 3 年間、ICO の President を務め、我が国の存在感を示すことに大きく貢献した。ICO 総会は、3 年毎に開催されるが、2017 年には、東京において 1,000 人を超える参加者を得て成功裏に開催することができた。 荒川委員長は $2017\sim2021$ 年の 4 年間、Past President として ICO の役員を継続した。

美濃島 ICO 分科会幹事は、 $2021\sim2024$ 年の 3年間、Vice President として、ICO の運営に貢献した。さらに、美濃島幹事は 2024年からの 3年間、Vice President に再選された。今後の活躍が期待される。

加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて

世界 53 か国、8 学術団体が参画する ICO に加入することにより、光の科学と技術に関する学術・研究交流、人的交流が行われていることは意義深い。また、国際光年の活動は、ユネスコの決定を受けて ICO などの国際学術連合体が中心となって推進したものであるが、これにリンクして、国内において国

際光年の運動が活発に行われ、光の科学と技術の重要性に関する国民への啓蒙が行われた。ICO総会は、ICOが3年ごとに開催する国際会議であり、光学及びフォトニクス分野で権威ある国際会議であるが、前述の通り、2017年に本ICO総会を東京において日本学術会議主催で開催した。日本での開催は、第13回以来、34年ぶり、2回目の開催であった。光学・フォトニクスは、光自身の性質に関する基礎物理や、その発生・検出などの基礎技術、さらに光を用いた多種多様な応用に関する研究などを包含した極めて広範な学術領域である。光学・フォトニクスに関連する技術は、いまや我々の生活の様々な部分で欠くことのできない要素となっており、当該分野の研究・技術への関心と期待が高まっている。2014年のノーベル物理学賞が示すとおり、我が国における当該分野の研究水準は極めて高く、今後も世界を牽引することが強く期待されている。

2017年のICO 総会では、"Light for Society"をテーマに、 光学・フォトニクス技術の進展と、Quality of Life の向上や、 エネルギー問題に代表される人類社会の抱える課題への貢献 について、発表と議論が行われ、当該分野の発展に大きく寄与 した。本会議を日本で開催することにより、光学およびフォト ニクス分野における我が国のプレゼンス・研究水準の高さを 改めて国内外に強く印象付ける機会となるとともに、その研究を一層発展させる契機となったと確信している。また、市民 講座の開催により、光・フォトニクス技術の重要性を広く国民 にも啓もうすることができた。

2018年に UNESCO が国際光デーを制定して以降は、これに連動して ICO 分科会が毎年(2020年は Covid-19 のため、翌年に延期、21年22年はオンライン、23年以降は日本学術会議講堂)日本学術会議主催の国際光デー記念シンポジウムを開催し、多くの参加者を集めており、この分野に対する国民の関心の高さがうかがえる。

その他(若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など)

ICO は、若手研究者・技術者・女性研究者の育成と開発途上国への支援を特に強調している。優れた若手研究者に対しては国際賞を授与することにより、育成を図っている。 さらに、開発途上国における光の科学と技術について、会議やスクールの開催を積極的に支援するとともに、啓もうを図っている。

2 今後の予定について(内規第11条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予	直近での日本開催予定はなし。
定について (招致等の予定も	
含め)	
日本人の役員立候補等の予	2021~2024 年に Vice President を務めた美濃島薫 ICO 分
定について	科会幹事が 2024 年の総会の選挙に立候補し、2024~2027 年
	も Vice President を務めることとなった。3 年後の役員選挙
	への対応は、27 期の ICO 分科会に委ねられる。

現在、検討中の日本からの提目本独自の提言は特になし。 言や推進するプロジェクト 等の動きについて

3 国際学術団体会議開催状況(内規第11条 活動報告)

総会・・ 理事		学州団体会	議開催状况(内規第 11 条 活動報告)
会・各 極委員会等の状況 2021 年 (開催地: 2020 年から 1 年延期、オンライン) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 2024 年理事会・役員会 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 2023 年理事会・役員会 (開催地: Dresden、ドイツ) 2025 年理事会・役員会 (開催地: Dresden、ドイツ) 2022 年理事会・役員会 (開催地: オンライン) 2020 年理事会・役員会 (開催地: オンライン) ICO には、ノミネーション委員会、長期計画委員会、地域開発委員会、海常委員会、国際賞委員会 (ICO Prize Committee、IUPAP Young Scientist Prize in Optics、ICO/ICTP Award、Galileo Galilei Award の3 委員会)、Traveling Lecture 委員会、IUPAP 対応委員会 (C13、C15、C17)、国際組織対応委員会 (ETOP、TSOSA、OiC/IP)、国際光年委員会が設置されている。これらの委員会において、各々の委員会の活動報告と審議を行っている。 研究集会・会議等開催状況 ICO Congress: 2024 年 (開催地: Tokyo、日本) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2023 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年 (開催地: White River、南アフリカ) 2016 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2016 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2016 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2023 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2016 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2024 年 (開催地: Presden、ドイツ) 2016 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2024 年 (開催地: Presden、ドイツ) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2024 年 (開催地: Dresden、ドイツ) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2024 年 (開催地: Presden、ドイツ) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 1CO Topical Meeting: 2024 年 (開催地: Santalago de Compostela、ズンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマンマ		公	_
# 接		' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' ' '	
会等の		1/100	
状況 (過去 5年間 及び今 後予定		_	
(過去 5 年間 及び今 後予定 されているも の) 2022 年理事会・役員会(開催地:カンライン) 2020 年理事会・役員会(開催地:オンライン) (日本 (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (日本) (状況	理事会•	-
5年間 及び今後予定されているもの	(過去		
及び今 後予定されているもの)	5 年間		
おれているもの)			2020 年理事会・役員会 (開催地:オンライン)
数育委員会、国際賞委員会(ICO Prize Committee、IUPAP Young Scientist Prize in Optics、ICO/ICTP Award、Galileo Galilei Award の 3 委員会)、Traveling Lecture 委員会、IUPAP 対応委員会(C13、C15、C17)、国際組織対応委員会(ETOP、TSOSA、OiC/IP)、国際光年委員会が設置されている。これらの委員会はメールやオンラインベースで随時開催されており、毎年開催される理事会・役員会において、各々の委員会の活動報告と審議を行っている。 ICO Congress: 2024 年(開催地:Cape Town、南アフリカ) 2022 年(開催地:Dresden、ドイツ) 2017 年(開催地:Tokyo、日本) ICO Topical Meeting: 2023 年(開催地:Hanover、ドイツ) 2016 年(開催地:Hanover、ドイツ) 2016 年(開催地 Bordeaux、フランス)上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年(開催地:Cape Town、南アフリカ)日本人参加者 約 10 名 2022 年(開催地:Dresden、ドイツ)Covid-19 のため 2020 年から延期)日本人参加者 約 30 名 2017 年(開催地:Tokyo、日本)日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年(開催地:Santiago de Compostela、スペイン)			ICO には、ノミネーション委員会、長期計画委員会、地域開発委員会、
Scientist Prize in Optics、ICO/ICTP Award、Galileo Galilei Award の 3 委員会)、Traveling Lecture 委員会、IUPAP 対応委員会(C13、C15、C17)、国際組織対応委員会(ETOP、TSOSA、OiC/IP)、国際光年委員会が設置されている。これらの委員会はメールやオンラインベースで随時開催されており、毎年開催される理事会・役員会において、各々の委員会の活動報告と審議を行っている。 ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 2022 年 (開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting: 2023 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2016 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年 (開催地: Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ)Covid-19 のため 2020 年から延期)日本人参加者 約 30 名 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
会開催状 況		为任壬口	
 (兄15、C17)、国際組織対応委員会(ETOP、TSOSA、OIC/IP)、国際 光年委員会が設置されている。これらの委員会はメールやオンラインベースで随時開催されており、毎年開催される理事会・役員会において、各々の委員会の活動報告と審議を行っている。 ICO Congress: 2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ) 2017 年(開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting:	(0)		の3委員会)、Traveling Lecture 委員会、IUPAP 対応委員会(C13、
 光年委員会か設置されている。これらの委員会はメールやオンラインペースで随時開催されており、毎年開催される理事会・役員会において、各々の委員会の活動報告と審議を行っている。 ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting:			C15、C17)、国際組織対応委員会(ETOP、TSOSA、OiC/IP)、国際
Ray の委員会の活動報告と審議を行っている。 ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting: 2023 年 (開催地: White River、南アフリカ) 2016 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年 (開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期)日本人参加者 約 30 名 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人の参加・出席 お 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)		7几	光年委員会が設置されている。これらの委員会はメールやオンラインベ
ICO Congress: 2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ) 2017 年(開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting: 2023 年(開催地: White River、南アフリカ) 2016 年(開催地: Hanover、ドイツ) 2016 年(開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年(開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名 2017 年(開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年(開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ) 2017 年(開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting: 2023 年(開催地: White River、南アフリカ) 2016 年(開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年(開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ)Covid-19 のため 2020 年から延期)日本人参加者 約 30 名 2017 年(開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年(開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
田			
研究集会・会議等開催状況 2017年(開催地: Tokyo、日本) ICO Topical Meeting: 2023年(開催地: White River、南アフリカ) 2016年(開催地: Hanover、ドイツ) 2015年(開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者約 10名 2022年(開催地: Dresden、ドイツ)Covid-19のため2020年から延期)日本人参加者約 30名 2017年(開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者約 700名・国外参加者約 400名 状況及び予定			-
研究集会・会議等の日本人の参加・出席状況及び予定 ICO Topical Meeting: 1CO Topical Meeting: 2023 年(開催地: White River、南アフリカ) 2016 年(開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年(開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者約10名 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ)Covid-19 のため2020 年から延期)日本人参加者約30名 2017 年(開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者約700名・国外参加者約400名 2014 年(開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
会・会議 等開催状 2016 年 (開催地: White River、南アフリカ) 2015 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年 (開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)		研究集	-
第開催状 況 2016 年(開催地: Hanover、ドイツ) 2015 年(開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年(開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年(開催地: Dresden、ドイツ)Covid-19 のため 2020 年から延期)日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 状況及び予定 2014 年(開催地: Santiago de Compostela、スペイン)		会・会議	
 次 2015 年 (開催地 Bordeaux、フランス) 上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期)日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日 本人の参加・出席 本人の参加・出席 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 状況及び予定 状況及び予定 			
上記以外に多くの会議を cosponsor もしくは endorsement によりサポートしている。 http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日本人参加者 約 30 名 2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 状況及び予定 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)		況	
http://e-ico.org/activities/cosponsorship ICO Congress: 2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日本人の参加・出席 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
ICO Congress:2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ)日本人参加者 約 10 名2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名上記会議等への日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名本人の参加・出席本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名状況及び予定2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			ートしている。
2024 年 (開催地: Cape Town、南アフリカ) 日本人参加者 約 10 名 2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日本人の参加・出席 本人の参加・出席 状況及び予定2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			http://e-ico.org/activities/cosponsorship
日本人参加者 約 10 名2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名上記会議等への日本人の参加・出席本人の参加・出席状況及び予定日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
2022 年 (開催地: Dresden、ドイツ) Covid-19 のため 2020 年から延期) 日本人参加者 約 30 名上記会議等への日本人の参加・出席 大沢及び予定12017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
期)日本人参加者 約 30 名 上記会議等への日 本人の参加・出席 状況及び予定 期)日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年(開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
上記会議等への日本人の参加・出席 状況及び予定2017 年 (開催地: Tokyo、日本) 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年 (開催地: Santiago de Compostela、スペイン)			
本人の参加・出席 状況及び予定 日本人参加者 約 700 名・国外参加者 約 400 名 2014 年(開催地: Santiago de Compostela、スペイン)	1. 對人業	美 <i>林</i> 。 の日	1777
状況及び予定 2014 年(開催地:Santiago de Compostela、スペイン)		参加・出席	-
D 1 2 1 2 1 2 2 2 1 1 1 1 2 2 2 1	1/1/1/2/2	, 1 1/	
ICO Topical Meeting:			
2023 年(開催地: White River、南アフリカ)日本人参加者若干名			
2016 年 (開催地: Hanover、ドイツ) 日本人参加者若干名			
2015 年(開催地:Bordeaux、フランス)日本人参加者若干名			

	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	Vice President	$2024\sim2027$	美濃島 薫	(26 期) 会員·連携
国際学術団体にお	Vice President	$2021\sim2024$	美濃島 薫	(25 期) 会員 · 連携
ける日本人の役員	Past President	$2017 \sim 2021$	荒川 泰彦	(25 期) 会員・連携
等への就任状況				(24 期)会員・連携
(過去5年)		~		(期)会員・連携
		~		(期)会員・連携
		~		(期)会員・連携
		~		(期)会員・連携

ICO Triennial Report

出版物

 $News\ Letter$

活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載

ICO Triennial Repot:下記 URL から閲覧可能。

https://www.e-ico.org/blog/publications/ico-triennial-report/

News Letter:下記 URL から閲覧可能。

https://www.e-ico.org/blog/publications/ico-newsletter/

	委員会名	ICO 分科会
	委員長名	荒川泰彦
国内委員会(内規4条第3号)	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) ○委員会開催 第1回:令和6年3月1日 第2回:メール審議(令和6年3月19日~3月21日) 第3回:メール審議(令和6年5月16日~5月22日) 第4回:令和6年7月25日 第5回:令和7年4月15日 議題:ICO状況報告、国際光デー記念シンポジウム、光科学技術調査企画小委員会設置、などについて審議。 ○シンポジウム開催 令和6年7月25日に国際光デー記念シンポジウム『~量子技術とレーザー科学の最前線~』を開催。 令和7年7月7日に国際光デー記念シンポジウム『~光が拓く科学技術の最前線~』を開催予定。

国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である

1.) 該当する 2. 該当しない

※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載(http://www.

各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して 加入するものが、主たる構成員となっている(主たる構成員が、いわゆる「国家会員」で あるか否か)

)

1.) 該当する 2. 該当しない

※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.

下記の事項(ア〜エ)のいずれか一つに該当するか(該当するものに○印)

ア)個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの

イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有す るもの

ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合 した世界的組織を有するもの

エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるもの であって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの

10 ヵ国を超える各国代表会員が加入している

(1) 該当する2. 該当しない

加入国数及び (54 ヶ国)

内 .規第 3 国 際学術団 体 \mathcal{O} 要件関 係

主要な各国代	• 名	国代表会員名/国名
表会員を	1.	National Academies/米国
10 記載	2.	Institute of Physics /英国
	3.	Société Française d'Optique/フランス
	4.	The German Branch of the European Optical Society/ドイツ
	5.	Italian National Council of Research/イタリア
	6.	Spanish Optical Society/スペイン
	7.	Mexican Academy of Optics/メキシコ
	8.	Australian Optical Society/オーストラリア
	9.	Institute of Physics Polish Academy of Sciences/ポーランド
	10.	Chinese Optical Society/中国

(参考)

国内関係学協会(主要7団体)

公益社団法人応用物理学会、一般社団法人日本光学会、一般社団法人日本物理学会、 公益社団法人日本化学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人レーザー学会、 公益社団法人日本分光学会